

## ぷれいす 東京

Positive Living And Community Empowerment Tokyoc

### Contents

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 「ぼくらのまなざし」.....                 | 1  |
| ぷれいす東京 第8回総会・活動報告会.....         | 2  |
| Think About AIDS                |    |
| ～ TOKYO FM とのコラボレーションイベント～..... | 4  |
| NLGR2008.....                   | 5  |
| ネストより 第4回「専門家と話そう」.....         | 6  |
| 長期療養シリーズ「人とつながる 社会とつながる」.....   | 7  |
| 書評.....                         | 8  |
| 部門報告 (2008 年 4～6 月).....        | 9  |
| ボランティア募集! 合同研修のお知らせ.....        | 12 |

## 「ぼくらのまなざし」

張 由紀夫 (RainbowRing / エイズ予防財団 流動研究員)

Living Together Lounge で朗読をしてくれる人と打ち合せをしてきた。街の人気者で、いつもお酒と友だちと喧噪にかこまれてワイワイやってるような人なのだけれど、友人に何人か HIV を持ってる人たちがいるらしい。二日酔いでちょっと頭が痛いんだといいながら、自分に出来ることはなんなのだろうと、彼の目は痛いくらいにまっすぐで真剣だった。

Living Together 計画のメッセージを冊子やらポスターの形で新宿二丁目のお店に配るようになってから、街の雰囲気が変わったと思うことがある。知り合いのバーのマスターに「こういうメッセージを待ってたのよ」と言われた。地続きの日常の延長線上に HIV があり、陽性者がいて、だからこそやなくちゃいけないことがある。マスターは冊子を読んで、点と点が繋がって輪になるように、すごく合点がいったのよ、と伝えてくれた。「予防しなくちゃ」ってことも、「差別は良くないな」って思いも、リアリティに乗っかって、はじめて形になり動き出すものなのだろうと思った。

すごくいいプロジェクトだとは思うけど、一方でこういう『HIV 陽性者に優しい』メッセージは、「感染してもいいんだよ、そんな大したことじゃないんだよ」と受け取られる危険性もあるのでは? と訊かれることがある。もっと危機感を持たせろってことなんだろうな。たしかに自分たちの抱えてる危機感とのギャップを感じてしまうシーンには時々出くわすのだ。生掘種付け系の掲示板を見たり、加速するドラッグやセックスへの依存やそこに見え隠れする HIV の存在に気づいたり、「恋人だから当然ナマだよー」なんて台詞を聞くと、心臓がドキドキすることがある。けれどもそれはいったん深呼吸をして、それぞれを別々に分けて考えなくちゃいけない「問題」だ。そして警鐘を鳴らしたり、信号の表示を赤く照らす前に、急いでやらなくてはならないことがあるのだろうと思っている。「HIV を持ってる人もそうじゃない人も、ぼくらはもう一緒に生きている」というメッセージは決して優しいだけのメッセージではないとも思っている。とてもシビアな現実のこともしょに伝えているんだから。

HIV が「普通の病気」だと言ってしまうには、まだまだ時間が必要だ。どんなに情報を手に入れても、抗体検査にはドキドキがつきものだし、同じように今や治療法のたくさんあることを知っている友人も「元カレが感染したことを知ったときにはやっぱりショックだったよ。恥ずかしいけど」と打ち明けて来た。まだまだ HIV は「特別なウイルス」なのだ。そして、そんなケガのしやすい薄い皮膚の上に、なんの受け皿も用意せずにナイフを当てることは出来ない。

HIV をめぐって人が向き合わなくてはならないリアルとはなんだろう? 自分が感染すること。大切だと思っている人たちが感染すること。周囲の人が不安を抱えている時だってそうだ。さまざまな事情があってセーフアセックスのことを知りたいと思ったときなんかもそうだろう。そんな、それぞれのリアルに向き合うタイミングに、立ち寄れたり、電話をかけたり、読んだり聞いたり出来る受け皿を作ること。道筋を示したり、時には独りの道行きに明かりを灯すこと。そして、その前提に立ってはじめて鳴らすことの出来るアラームがあり、知らせることの出来る現実があるのだと思っている。それが、エイズ戦略研究・首都圏グループの持つ「まなざし」だ。

最初は冊子のタイトルだった『REAL ~ Living Together』が、ぼくたちのグループのロゴマークになった。「いつかは向き合う現実」がその当初のコンセプトだったのだが、ぼくの中では少しだけその意味合いが枝分かれして増えて来た。いつか、その形を変えて現実化したい『リアル』があるのだ。それは、HIV を持ってる人やその周囲の人たちが、暮らしやすい街のことなのだけれども、もしかしたら、そこは誰もが暮らしやすい街なのかもしれないと感じている。



新しくできたロゴマーク

# ぷれいす東京 第8回総会・活動報告会

恒例のぷれいす東京の総会・活動報告会が5月25日に豊島区立生活産業プラザにて行われました。今年も多方面からの参加があり、来場者計71名と大盛況の活動報告会となりました。

まず、第8回目の総会において年度報告および会計報告が行われました。正会員によって承認され、総会は無事執り行われました。

そして、活動報告会は池上代表の挨拶に続き、恒例の部門報告。

7部門20名にもおよぶ多彩な部門担当者が次々に登場して、限られた時間をフルに使っての現場感覚にあふれた報告は圧巻。ぷれいす東京の幅の広い活動の様子や、熱心な活動の様子が伝わったことと思います。

後半は、メディアで活躍中の佐々木恭子さんが飛び入りで参加。この数年に経験をしてきたエイズに関する国内外の取材を通して感じたことをお話しいただきました。

佐々木さんほか、活動報告会の参加者のみなさんからの感想文をお届けします。



71名の参加で満員の会場

## 「ひとりひとりのストーリー」

佐々木 恭子

3年間、HIV・エイズの世界の現状、日本の現状を取材する中で、自分自身がどう変化したか—それを報告するのが私への課題だった。思い起こせばこの3年間、取材をするにもやや壁が厚いこの問題をどう発信するか、考え続けてきたように思う。

まずは、「ひとりひとりのストーリーを知りたい」と思った。HIV陽性者という塊で捉えてもわからない。顔が見え、体温を感じなくては伝わらない。そこで、たくさんの方と話をさせて頂いたが、当初は、どこまで聞いていいか、事前に確認したかった。しかし、その不安こそ自分の中の壁だと思った。もちろん、不躰なコミュニケーションはしたくないが、人と人だもの。何か間違えれば謝るし、顔を見て、心を感じながら、自分自身も心になるだけ裸にして話をすればいいんだと思った。今は、そんなことすら、わざわざ意識をすることでもないと思う。

さらに、最近では、HIVのことだけを掘り下げるのではなく、他にもある問題を視野に入れたいと思うようになった。先日、難民問題をどう発信するかについてのキーワードが「多様性・寛容性・共感」だと聞いた。まさに、HIVの支援をしている男性から聞いたワードそのものだった。確かにそうなのだ。誰もが何かしら、生きるのに荷物を抱えている。精神的・肉体的な障害、介護やワーキングプアを含めて。お互いの荷物、ちょっと持ち合う？そんな感覚で、HIVのことを語り合えないかと思う。軽々しいと怒られるかもしれない。が、全く自分に引き寄せて考えたこともない人たちに目を開いてもらうには、「私も、感じる」と思う体験が必要なのではないだろうか。

## 「感じたことなど\*」

RainbowRing/community center akta 荒木 順子  
はじめて参加させて頂きました。

「Living Together計画」から垣間みてきた「ぷれいす東京」さんの全貌を知った感じがしました。14年も活動を続けてこられている事、ボランティアスタッフで10年以上関わっている方がいらっしゃる事にウレシク驚きました。すご〜い！素晴らしい。

磨き上げられてきた研修に、私も一度参加してみたいな、と思いました。またRainbowRingで行っている学習会などを、ぷれいす東京の方にも利用して頂いたらどうだろうか、などと考えめぐらせていました。お互いに手の内を知る事で、より有効にタッグをくめると素敵だな、と思います。

スペシャルゲストの佐々木恭子さんのトークもとてもよかったです。個人的にMSM事情は身近ですが、マラウイやニューギニアの状況を映像で見たのが初めてで衝撃的でした。

やらなければいけない事が山積みですが、ここにいるみなさんは、真摯に向き合っているのだと思うと元気づけられます。すてきな時間をありがとうございました。これからもどうぞ宜しくお願いします。

## 「はじめて参加をして」

ネストスタッフ 神原 奈緒美

私は、この度はじめて、ぷれいす東京の活動報告会に参加をさせて頂きました。私自身はまだ活動を始めたばかりのため、様々な部門の活動がどのようなものなのかとても興味がありました。

報告会が始まってすぐに感じたことは、活動を行っている方々がとてもイキイキされていて、なおかつ楽しそうに報告をされていることです。「これまで行ってきたこと」だけではなく、活動自体に「誇り」を持ち、胸を張ってこの一年間のことを話されている印象でした。

たくさんある部門のため、急ぎ足での報告ではどの部門も時間が足りないにもかかわらず、わかりやすく説明してくださっているように感じます。きっと活動してきた時間をとても大切にしている、という「報告会」なのではないかなあと思いました。

私も、ぷれいす東京で活動させていただくにあたり、発表されていた皆さんとともに活動ができることが楽しみになりました。

来年は、私も楽しく、「誇り」を持って活動報告会に望みたいと思いました！

## 「いざ東京へ レッツラ・ゴー！」

Follow 山本 克也

東京にはほとんど行ったことがなく、正直右も左もわからないので、遠慮気味だったのですが、体調もいい方だったので、今回は参加しようと思い重い腰をあげ、いざレッツラ・ゴー！

開会后、あいさつ、そして部門別に報告が始まったのですが、年度の活動を限られた時間内で報告するのはとても困難なことだと思います。しかし、テンポのよい進行が、今後の Follow の活動及び報告会の参考になりました。そして、思ったのが全国的にもっと陽性者支援の受け皿が必要だなと！

もうひとつ、なかなか参加しなかった理由があるのですが、今まで、他の報告会などに参加した事がありましたが、どうも緊張してしまい、参加することも躊躇していました。（自分自身が報告するわけじゃないのですが）でも、今回は緊張もせずリラックスして、聞きいっていると各部門の報告も終わり、休憩後、シークレットゲストのトークが始まりました。その後、ゲストの方と話もできて感謝です。

閉会后、懇親会では殆どの人とは初対面でしたが数名の方と挨拶をし、いろいろな話が出来てよかったです。懇親会も終わりに近づき始めたころには、新幹線の時刻が気になりだして慌たしだったのが辛かったですね。もっと皆さんと話がしたかったです。もっと時間に余裕をもって行くべきですね。もし次回も参加できるなら時間を考えていきます。また、次回も参加したいと思うような活動報告・懇親会でした。

スタッフの方々おつかれさまでした。ありがとうございました。また、参加者の皆様ありがとうございました。

### 「ぶれいす東京という『場』との繋がり」

バディ部門 岡村 直人

2007年3月からぶれいす東京に関わるようになって、昨年の報告会は右も左もわからないままとりあえず出席して、全体の雰囲気でもつかめればと思っての参加でした。今年は、一つ変わった点がありました。まだたった2回ですけど4月からバディの活動を開始したことで、ぶれいす東京に対して以前より強いつながりを持ってこの報告会に臨めたのではないかと思います。実際、昨年9月の全体研修と部門の個別研修が終わった後、「待機」の状態がずっと続いていたので宙ぶらりんのような感じでした。今

回の報告会に参加された同期メンバーの方も同じような印象を持っていた方がいらっしゃいました。ですから報告会は、ある意味、多くの待機中メンバーにとってぶれいす東京とのつながりを再確認する場（ぶれいす）でもあるのではないのでしょうか。他部門の方々のお顔や声を実際に見聞きしながら報告を聞くのと、単に紙面で報告書を読むのでは大きな違いが生まれてくるでしょうから。スタッフの皆様、お疲れ様でした。

### 「オドロキーその1～その3」

JICA(中国)／(財)エイズ予防財団 福原 毅文

前回の一時帰国時に池上さん・生島さんのお誘いを受け、今回はじめて活動報告会に参加させていただきましたが、私にとって驚愕／敬服／感服の2時間余りでした。

#### 「オドロキーその1」

多種多様な「活動」のそれぞれについて、企画・設計・実施・評価（形成的評価を含め）がキチンと行われ、さらに、次の「活動」の改善に繋げる（「担当される方々の」態度）までも窺い知ることが出来たことにまず驚かされました。

#### 「オドロキーその2」

個々の活動実施（責任）体制がシッカリと確立されており、ぶれいす東京の「組織成熟度／完成度」の到達度合にビックリ＆脱帽でした。

#### 「オドロキーその3」

以上のことを可能にする「（担当者等を対象とする）能力強化システム」が完備していることは、私たちの「JICA 甘肅省 HIV／エイズ予防対策プロジェクト」がまさに「目指してきたもの」そのものであり、大変に勉強になりました。

最後に、「お年寄りハラスメント」「ポッチャリさんハラスメント」が跋扈する世の中、皆さんからの報告に些かの「愚痴っぽさ」も感じ取ることがなかったことについて、ぶれいす東京の「これから」を垣間見れて嬉しく思いました。



活動報告会の受付の様子



ホットライン部門は3人で報告



Gay Friends for AIDS (Gフレ) 部門報告



バディ部門の報告をする牧原さん



総会で会計報告をする吉田さん（右）



総会で報告をする池上代表と生島運営委員長



# Think About AIDS

## ～TOKYO FM とのコラボレーションイベント～

HIV 陽性者とその周囲の人の手記を読んで感じたことをコメントするという、ポエトリー・リーディングが、Living Together 計画と TOKYO FM のコラボレーションとして実現しました。2007 年 12 月に続いて、2008 年 6 月にも第 2 弾が実施され、映画「ぐるりのこと。」(橋口亮輔監督)もコラボレーションパートナーとなり、厚生労働科学特別研究事業「エイズ予防のための戦略研究」(研究リーダー市川誠一)の協力/後援で行われました。

音楽と手記とトーク、主旨に賛同していただいたゲストを招いてのイベントとラジオ放送が行われ、大きな反響を得ました。出演したリリー・フランキーさん、橋口亮輔さん、佐藤江梨子さんなどのリーディングやコメントをポッドキャストで聴くことができます。



6 月のイベントのトークコーナー

「Tree of Love ポエトリー・リーディング  
Think About AIDS」(2007 年 12 月)  
「TFM × Living Together ×ぐるりのこと。」  
(2008 年 6 月)  
<http://www.tfm.co.jp/podcasts/premium/>



12 月に行われた第 1 回目(左)と、6 月の第 2 回のフ  
ライヤー

### 「ディレクターのつぶやき」

TOKYO FM「Diary BIBLE」「クロノス」担当ディレクター  
東島 由幸

思えば、まだ 1 年しか経っていない。去年の今頃、民放のテレビ局で日本のエイズ特集を作った。でも、自分のディレクター人生の中で最も深い悔いが残る 1 本に…情報を伝える作品としては秀逸だと評価されたが、誰の体温も感じられないものだったからだ。これからキャリアも中盤戦に差し掛かるのに、このザマかよ、とかなり落ち込んだ。取材を担当したアナウンサーにも、取材を受けてくれた人にも、申し訳ない気持ちで一杯だった。

去年の後半は、その悔いが自分を駆り立てて、Living Together とのコラボレーションという仕事に向かわせていた気がする。借りを返すチャンスだと信じて、持てる力を全て注いだ 1 回目。これまでとは違う、確かな手ごたえがあった。一般的にメディアは、1 回の特集に全ての要素を込めるのが普通で、同じトピックを短期間に何度も特集することはない。でも、今回のラジオでは、これまでの反省を生かし、3 度にわけて特集を放送してみることにした。すると、思いがけずスタッフに変化が起きた。まもなく現場から「新宿の Living Together Lounge みたいなイベントを TOKYO FM でもやろうよ」という声がおき、「ポエトリー・リーディング Think About AIDS」というイベントが生まれた。そう、あれは現場の熱意が生んだもの。準備期間はほとんどなかったにも関わらず、お金がないから全員ボランティア状態だったにも関わらず、形になった。裏テーマとして、ゲイのお客さんを呼べるアーティストに集中してあったり、とか、自分で思いつく工夫を自由に試すことができるのが、楽しくて仕方なかった。それを客席で見てくれるお客さんの存在が愛おしかった。

そして、さらに欲がでた 2 回目。1 回目とも、新宿の Living Together Lounge と違う“何か”を試してみたい。そう思って準備を始めた僕の前に期せずして現れたのは、映画『ぐるりのこと。』『めんどくさいけど、いとおしい。いろいろあるけど、一緒にいたい』。そんなコピーに凝縮される通り、この映画には、つまずきながらも、絆を深めていく夫婦の様子が描かれている。完成披露試写で見て、もはや自分の手では届かない、心の奥深くを揺さぶられた気がした僕は、この映画に描かれた世界観と Living Together をぶついたら、これまでにない新しい“何か”を生み出すことができるはず、そう信じて、多くの人に頭を下げ、2 回目を走りぬけた。

足りないことは一杯あったし、敵も沢山作ったけど、手前味噌全開で言わせてもらえば、リリー・フランキーさんや橋口亮輔監督の語りを聞いて、今回も苦勞が報われたと思った。HIV のこともゲイのことも、フラットな存在として話の中に登場する。そこには笑いも涙もある。殊更に社会的な問題なんです！と叫ばない語りが、聞き手の心を動かしていた。僕が作りたかったのは、こういう番組であり場所だ、と思えた。

「どうして、そんなに一生懸命なんですか？」と聞かれることがある。自分でも不思議だが、このコラボレーションの仕事は別格で、疲れをあまり感じない。何度も手記を読み返していると、そこに感じる誰かのぬくもりに涙を流している自分に気付く。自分が 30 になったことも関係しているのかもしれないが、世界には悪意が満ちていても、人のつながりは、希望を生んでいくものだなあ、ということが信じられる気がするのだ。

今年も一つでいいから、自分の、そして誰かの記憶に刻

まれる何かを生み出すことができたらいいのにな、と思う。それが出来る場所が、このLT との仕事なのだと信じているのだろう。あの日、あの場所で紡がれた言葉の数々を、ラジオで、ポッドキャストでぜひ聴いてほしい。ひどい世の中だけど、もうちょっと生きてみるのも悪くはないかもしれない、そう思えるはずだから。多くの人に支えられたこのプロジェクトが撒いた種が、花を咲かせて、誰かの記憶に刻まれるものを生み出すことができていたら、本当に嬉しい。

### 「歩き出した手記」

さとう いくお

ぷれいす東京に関わるようになってから、何度か「手記を書かない？」と依頼が来ました。元来書くことが好きなので、HIV+ という立場で何度か書いています。冊子「EASY！」に寄せた手記に「つつじの花…」があります。昨年それが、TOKYO FM で朗読されるという知らせが舞い込んだのです。知り合って1年目の記念に、彼がHIV検査を受けた時の思い出を書いた手記。読まれるだけでも光栄で嬉しいことなのに、更には僕がラジオに生出演する話が来て、僕の気持ちが大きく揺れ動いたことを覚えています。

シンガーソングライターのAIさんが朗読してくれること、MCの坂上さんと3人での絡みがあること、想定質問は何か、それにプライバシーはどうするか、などを打ち合わせました。折角の生出演だから、僕はリアリティを大切

にしたかった。だから声の処理を断りました。冒険だったけれど…。

放送当日、事前に場所を確保して、電話の前で待機。待っている時間に、期待と不安が交錯する。朗読が始まり、自分の手記がラジオで流れている喜び。僕は今まで「Living Together Lounge」に参加したことがなかったので、自分の文章を誰かに読まれること感覚を味わうのは、初めてでした。とても不思議な感じだけど、ワクワクしましたし、彼がHIV検査で陰性結果を得て、ふたりで喜んだこと。その時の感情がフッと戻ってきて、涙ぐんでいました。朗読されるっていいなあ。自分の感性が、朗読者に伝わり、更に広がって行く感じ。あー、読む人はここに感じてるんだなあとか、ここに思いを込めるんだとか…新たな息吹を感じます。そして緊張感。臨場感。共有感。共生感。幸福感。

更に3人での会話もとても楽しかった。彼の包容力だったり、僕がHIV+としてどう生きているか、僕がこの手記で伝えたかったことなど…。HIV+でも一緒に生きていけるんだという思いが伝わったかな？今でもHIVで、様々な困難に陥る方々もいるので、自分の体を、自分で守って欲しいという願いが伝わったかな？僕はそんな風に考えながら話していました。とても素敵な一日でした。

今年の年賀状に、親友からそのラジオを聴いていて、「びっくり」というコメントがありました。突然のダブルカミングアウトを詫びた封書を出しましたが、まだ返事はありません。まだまだ受け入れられないこともある。それが現実ですが、僕の気持ちが届くといいな。

## NLGR2008 (Nagoya Lesbian & Gay Revolution 2008)

恒例となった名古屋のHIV/AIDS啓発イベントNLGRが5月31日-6月1日に開催されました。ぷれいす東京Gay Friends for AIDSもブース展示などを行い、イベントに参加協力をしました。

### 「NLGR2008に参加して」

づか

5月31日の朝…東京の空は曇りで少し肌寒い気候。名古屋の天気は「曇り時々雨」という心配な天気。乗り込んだ新幹線も、静岡を過ぎた頃から雨がパラパラ…大丈夫かなあと思いつつ、名古屋中心部にある池田公園へ。到着すると、ANGEL LIFE NAGOYAのスタッフが忙しく準備をしていて、実行委員長のかず～さんから「今日はありがとうございます！2日間よろしくお願いします」と元気な挨拶をもらい、自分たちも雨空に負けないくらい元気にOURDAYS DIARYやぷれいすのことを紹介しようと会場設営に取り掛かりました。

NLGRの今年のテーマは「名古屋Happiness!」～HIVを正しく理解して皆で考えて生きるハピネス！出会いやふれあいのハピネス！～それって、まさに「LIVING TOGETHER!」と思い嬉しくなったりして、なにより嬉しかったのがDIARYを掲示している傍から、熱心に見てくださる方や、質問をしてくださる方々、もちろん年齢や性別も国籍もセクシュアリティだって様々！展示したDIARYを通して、お客さんにも「HIVを持っている人も、

持っていない人も、一緒に暮らしている」ことを感じていただけた2日間でした！



会場の池田公園



OURDAYS DIARYの展示をしたブース

## ネストより 第4回 “専門家と話そう” 「ゲイのドクターと話そう」

6月28日に、ネストにて「ゲイのドクターと話そう」が開催されました。今回のゲストは、しらかば診療所の院長として活躍中の井戸田一朗さん。参加者／スタッフあわせて20名以上、質疑応答も盛んに行われ充実した会となりました。

“専門家と話そう”シリーズは、さまざまなゲストをお招きしてお話をさせていただく企画です。第1回目「歯科医と話そう」（鈴木デンタルクリニック：鈴木治仁さん）、第2回目「弁護士と話そう」（東京南部法律事務所：永野靖さん）、第3回目「開業医と話そう」（ねぎし内科診療所：根岸昌功さん）、そして第4回目「ゲイのドクターと話そう」（しらかば診療所：井戸田一朗さん）です。陽性者が開業医やさまざまな専門家と身近に話ができる機会を創出していくために、今後もさまざまなゲストをお招きしていく予定です。

今回の参加者から2名と井戸田さんの感想文をお届けします。

### 「ゲイのドクターと話そうの感想文」

いぐさ

現在受診している拠点病院の診察時間は仕事の時間と重なるため、今後時間の都合がつけやすいクリニックでの受診を考えています。また、根底に抱える生活上の問題はゲイの人でしかわからないと思う部分があり、ゲイのドクターなら理解があるのではないかと興味をもって参加しました。

序盤は少し堅苦しい話し振りでしたが、時間が経つにつれてくれた雰囲気となったので楽しく有意義な時間を過ごせました。今の主治医になかなか聞きにくい事が聞けたり、クリニックを実際に受診してみないと分からなかったであろう疑問を知ることができて参考になりました。

一番良かったのはドクター本人とお会いできてどんな感じの方なのかわかったことです。病院の先生は受診してしかどんな人か分かりませんから。先生はやさしい印象で、ゲイの事もよく理解していただけているのはとても心強く感じました。ゲイである自分にとってのかかりつけ医としてありがたい存在になる可能性を感じました。

### 「ドクターとのかかわり」

SHUN ama

感染を知ってから間もなく3年を迎えます。HAARTによる治療も順調に進み、陽性とわかってからの暮らしにもようやく慣れて、恋愛も経験する程のこころの余裕も出てきました。そんな中で今も変わらない僕の課題は、これからも続く医療との係わり、医療者とのコミュニケーションを、いかに滑らかなものにして行けるかという点であると思います。治療を続けるということは、単に検査を受け勧められた薬を飲むというような単純作業ではなく、患者と医療者の間に信頼関係が築かれていて、お互いが人であるということが理解できている。そのようなベースがあって初めて患者は安心をして、自己開示をすることができ、安定した療養生活が過ごせるのではないかと感じています。

そのようなことを考えながら、今回の学習会「ゲイのド

クターと話そう」に参加させていただきました。印象に残りましたのは、普段から気になりながらも、診察室ではなかなか相談しにくいセックスについての話題も、遠慮や隠しごとなくリアルな話をする事ができるドクターが東京にはいる。そしてゲイが安心して通うことのできる環境のクリニックがあるということでした。井戸田先生は、自らがゲイであることをカミングアウトされていますので、僕もセクシャリティーの壁を感じずに素直にお話を聞くことができたのだと思います。会も終わりに近づいた頃の質疑応答の中では、進行役の生島さんと井戸田先生の和気藹々としたやりとりを拝見していて、僕のイメージする患者とドクターの理想の未来を見ているようにも思え、微笑ましく居心地の良さを感じることができました。

初めてのネストの学習会、関西からひとりで参加するという不安もありましたが、参加者のみなさんやスタッフのみなさんにもとても親切にいただきました。学ぶ場がなければ知ることができないことを実感しています。このような機会を与えていただきありがとうございました。

### 「『ゲイのドクターと話そう』に参加して」

しらかば診療所院長 井戸田 一朗

しらかば診療所の井戸田です。去る6/28に、「専門家と話そう」シリーズ4回目にお呼びいただきありがとうございました。多くの参加者の方々に夜遅くまでご参加いただき、また活発な質問をお寄せいただき、ディスカッションをさせていただいたことを非常にうれしく思います。

私がぶれいす東京さんと出会ったのは、都立駒込病院で研修医をしていた1994年の秋でした。14年が経ち、今度は開業という立場でHIV医療に関わるようになりました。

しらかば診療所はセクシュアルマイノリティを主なターゲットにしたクリニックということで、こうした形で当事者の方々に直接語りかける場を提供していただいたことは、私どもの広報という面で非常にありがたい機会をいただけたと感謝しております。しらかば診療所はまだ歩き始めたばかりの若く新しいクリニックです。皆様に寄り添った、使い易いクリニックとしてどんどん成長していきたいと思っています。今後も皆様のご支援・ご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、日頃地道かつ絶えまぬ活動を継続され、今回の会のアレンジをいただいた、ぶれいす東京さんとスタッフの皆様に改めてお礼を申し上げたいと思います。



しらかば診療所院長  
井戸田 一朗さん



# 長期療養シリーズ 「人とつながる 社会とつながる」

2003 年より、ぶれいす東京は、日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラスと協働して、プロジェクト「長期療養シリーズ」を実施してきた。HIV 陽性者にかかわるさまざまな課題について調査を行い、結果をまとめた冊子を制作し、そのテーマに合った PLWHA (HIV 陽性者) ミーティングを開催するという複合プロジェクトである。これまで、服薬、メンタルヘルス、セルフマネージメントをテーマに取り上げ、それぞれ「服薬と生活」「ストレスとつきあう」「長期療養生活のヒント」と題した冊子を発行してきた。

2007 年度は、HIV 陽性者が周囲の人や社会とどのように関わっているのか、フォーマルからインフォーマルなソーシャルネットワークについて調査し、「人とつながる 社会とつながる」と題した冊子発行と同名の PLWHA ミーティングを実施した。

## ■ 冊子「人とつながる 社会とつながる」発行

HIV 陽性者は周囲の人々や社会とどのように付き合い、どんなことを感じながら暮らしているのだろうか。この冊子では、「周囲への告知」「プライバシー」「医療者とのかわり」「出会いと恋愛」「セックス」「仕事と職場」「将来設計」といった様々な切り口でこのテーマを取り上げている。

冊子の内容は、おおよそ各章ごとに二つのパートに分かれており、一つは、HIV 陽性者を対象とした既存の調査データの紹介である。もう一つは、2007 年 10 月に行われたフォーカス・グループ・インタビューなどから抜き出した HIV 陽性者 18 名の語りである。主に、既存の調査やそれに関連したことについてコメントをしている。

医療や職場だけでなく、個人的な人間関係である恋愛や家族、そして将来について幅広くとりあげており、それぞれの語りも充実している。HIV 陽性と分かった後、周囲の人や社会との付き合い方を考える上でのヒントとなるツールである。HIV 陽性者だけでなく、長期療養を支援する専門職や、周囲で陽性者と関わる多くの人に読んでもらいたいと考えている。

調査実施・分析・編集を担当した井上洋士氏からのコメントをご紹介します。

### 「『見えない障害』への対処の『経験知』をまとめること」

放送大学 井上 洋士

「人とつながる 社会とつながる」を創る作業は、私にとってとても刺激的なものでした。本来「生活の質」というのは、包括的で幅広いものであり、しかもその人自身がどう感じているのかという主観的な側面も重視したものでなければなりません。しかし、実際には、HIV 陽性者を対象として「生活の質」をきちんと幅広く見た調査が日本ではなんと少ないことか。医療面に偏った研究がなんと支配的なことか。「見えない障害」とも呼ばれる障害を抱えることになる HIV 陽性者の生活上の困難を「見えるもの」とし、

かつそれらの困難を乗り越えたたくましい方法を「経験知」として HIV 陽性者や周囲の人に知ってもらうことは、そのこと自体、支援の一環として必要な作業であるはずなのに…自戒も込めてそう強く思わせられました。

私のそうした強い思いが、短期間に作成したこの冊子にどれだけうまく反映させることができたのかは、よくわかりません。お読みになる方のご判断にお任せしたいと思います。いや、短期間でなくても、本来はとても難しい作業なのかもしれません。しかし私としては少なくとも、これで終わりと考えるのではなく、「生活の質」を見据え「見えない障害」をわかりやすく可視的にし、さらにそれらに対処した「経験知」をまとめフィードバックしていく作業（つまり HIV 陽性者支援）は、今後とも続けていきたいと、そう強く思った次第です。大変すばらしい機会に恵まれたこと、またそうした考えに導くがごとく日々の経験や思いを細かく語ってくれた HIV 陽性者の方々に、心から感謝したいと思います。



### 目次

はじめに  
HIV 陽性のイメージ  
HIV について伝えること  
医療の専門職とのかわり  
支えになってくれている人  
プライバシーと生活自主規制  
出会いと恋愛  
仕事と職場  
将来設計  
おわりに

発行：ぶれいす東京

日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス

協賛：鳥居薬品株式会社

編集：矢島嵩、長谷川博史、生島嗣

調査実施・分析・編集：井上洋士

デザイン：新藤岳史

## ■ PLWHA ミーティング

### 「人とつながる 社会とつながる」開催

2008 年 3 月 23 日に東京都内にて、PLWHA (HIV 陽性者) ミーティング「人とつながる 社会とつながる」が開催された。参加者、スタッフ合わせて 26 名、約 3 時間の充実した会となった。

まず、今回の長期療養シリーズの調査の実施・分析と冊子編集を担当した井上洋士氏より、調査報告がなされた。そして、社会心理学者の浦光博氏には、「サポートと自立」と題して講演をしていただいた。ソーシャルサポートは HIV 陽性者の生活の質を向上させる上でもっとも重要な

要素だと考えられ、産業分野における対人関係論から恋愛、家族、さらに臓器移植患者のソーシャルサポートに関する研究まで、幅広い分野で活躍される浦氏の興味深い講演が行われた。

休憩をはさんで、後半はミニシンポジウム。「より良く生きるためのヒント～医療・職場・恋愛・将来～」と題して行われた。シンポジストは、生島嗣氏（ぶれいす東京専任相談員）、石川雅子氏（千葉県エイズ派遣カウンセラー）、岳中美江（CHARM 相談員）。HIV 陽性者が自分の周囲とどうコミュニケーションをとり、どのような関係を築いていけばよいか、それぞれの地域でそれぞれの立場で HIV 陽性者への支援を行っている 3 名からの発言と、会場の参加者からの発言も交えてディスカッションが展開された。それぞれの地域で支援活動をする 3 名であったため、難しさや限界を含めた現場のリアリティが伝わるシンポジウムとなった。

（報告：矢島）

#### PLWHA ミーティング プログラム（敬称略）

##### 1. 長期療養シリーズ調査結果報告

井上 洋士（放送大学准教授）

##### 2. 講演「サポートと自立」

浦 光博（広島大学総合科学部教授）

##### 3. ミニ・シンポジウム

<HIV 陽性者とソーシャルサポート>

「より良く生きるためのヒント

～医療・職場・恋愛・将来～」

座長：井上洋士

矢島 嵩（ぶれいす東京／ジャンププラス）

シンポジスト：

生島 嗣（ぶれいす東京専任相談員）

石川雅子（千葉県エイズ派遣カウンセラー）

岳中美江（CHARM 相談員）

コメンテーター：

浦 光博

（協賛 鳥居薬品株式会社）

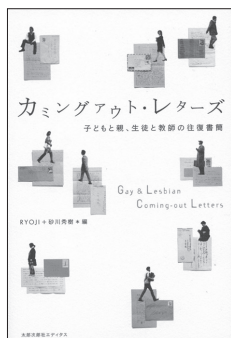
## 書評

### ●「カミングアウト・レターズ

子どもと親、生徒と教師の往復書簡」

RYOJI + 砂川秀樹編

2007 年 12 月 太郎次郎社エディタス



カミングアウトの書簡の他に情報も載っていて、1 人で考えこまずに相談出来るのが心強い。ネットでの情報は溢れていても、本となると少ないであろうから、何よりの本にまとまったと思う。

1. 親子の書簡 2. 先生と生徒の書簡 3. 親たちの座談会となっていて、あいだの編集者お二人の「カミングアウトストーリー」はうまい構成。親子の書簡は、きびしく重く、

親も子もハードルを越えもっと広げて社会偏見へ向かってゆくまでの記録ともいえる。先生と生徒というのは第三者の立場で見ており、相談者も自然と客観的に自分を見られるようになるのが良い。

座談会で印象的なのは、母親の一人が、頭では解っているが受け入れられない。他の方の様に社会に働きかけることなど出来ないと言った。私自身 10 年余活動させて頂いているが平凡な専業主婦であり痛いほど心にしみた。しかし此の方も座談会出席で一歩進んだ。色々の選択があり決定するのは『あなた自身』と本は問いかける。

（ホットライン 深見）

### ●「薬害 HIV 感染被害者遺族の人生

当事者参加型リサーチから」

山崎喜比古 井上洋士編

2008 年 2 月 東京大学出版会



数ヶ月前に、陽性者が集まる場で初めて薬害による陽性者の方と話すことがあった。

その際、当事者として HIV のことはある程度知っているつもりだったのが薬害関係がすっぱり抜け落ちていることに気づいた。それがきっかけで、もちろん研究書であることは知ってはいたのだが、僕はこの本を、陽性者の家族の手記集を読むよ

うな感覚で手に取った。

家族ではなく遺族であり、バックボーンとして薬害の問題があることから、重い語りが出てくることは想定していたのだが、紹介されている遺族の方の言葉は想像以上に重いものが多かった。しかし、それ以上に僕の心に響いたのは、そうした重く辛い体験であってもなお、知ってほしい、伝えたいという遺族の方の想いであった。遺族の方とは比べるのも失礼になりそうで恐縮なのだが、僕自身も陽性者として HIV のことを知ってほしいとか、正しく理解してほしいとか、そういった気持ちが少なからずあるからである。

本の帯では、この調査によって遺族の方の生きかたを「克明に歴史に刻む」としている。しかし、単なる史実を知るための本ではない。「歴史に学ぶ」ための本であると思う。

（バタートースト）



# 部門報告

## (2008 年 4 ～ 6 月)

### ● ホットライン

エイズ電話相談（ぶれいす東京および東京都委託）

#### ◆ホットライン部門・活動状況（ ）内は出席人数

|     |      |                                                                      |
|-----|------|----------------------------------------------------------------------|
| 4 月 | 11 日 | 東京都電話相談連絡会（3 名）                                                      |
|     | 12 日 | カマササイズ（10 名）                                                         |
|     | 20 日 | 世話人会（5 名）<br>スタッフミーティング（16 名）<br>有志昼食会（16 名）<br>記録票の検討会（3 名）         |
| 5 月 | 9 日  | 東京都電話相談連絡会（2 名）                                                      |
|     | 18 日 | 世話人会（6 名）<br>スタッフミーティング（16 名）<br>有志昼食会（16 名）<br>カマササイズ（7 名）          |
| 6 月 | 11 日 | 東京都ボランティア講習会<br>「診療所での HIV 検査と HIV 診療について」(5 名)                      |
|     | 13 日 | 東京都電話相談連絡会（3 名）                                                      |
|     | 15 日 | 世話人会（6 名）<br>スタッフミーティング / 「陽性者対応」(16 名)<br>有志昼食会（5 名）<br>カマササイズ（7 名） |

#### ◆相談実績報告

##### —ぶれいす東京エイズ電話相談—

|           | 4 月 | 5 月 | 6 月 |
|-----------|-----|-----|-----|
| 日数（日）     | 4   | 4   | 5   |
| 総時間（時間）   | 16  | 16  | 20  |
| 相談員数（延べ人） | 5.5 | 6   | 6.5 |
| 相談件数（件）   | 31  | 34  | 42  |
| うち（男性）    | 28  | 28  | 32  |
| （女性）      | 3   | 6   | 10  |
| （不明）      | 0   | 0   | 0   |
| （陽性者）     | 0   | 1   | 0   |
| 1 日平均（件）  | 7.8 | 8.5 | 8.4 |

##### —東京都夜間・休日エイズ電話相談—（委託）

|           | 4 月  | 5 月  | 6 月  |
|-----------|------|------|------|
| 日数（日）     | 12   | 14   | 13   |
| 総時間（時間）   | 36   | 42   | 39   |
| 相談員数（延べ人） | 30.5 | 34   | 28.5 |
| 相談件数（件）   | 216  | 260  | 249  |
| うち（男性）    | 183  | 208  | 193  |
| （女性）      | 31   | 51   | 56   |
| （不明）      | 2    | 1    | 0    |
| （陽性者）     | 0    | 0    | 0    |
| 1 日平均（件）  | 18.0 | 18.6 | 19.2 |

東京都 / ぶれいす東京の相談件数は、大きな変動はありませんでした。5 月の後半から、糖尿病管理器具や注射器のホルダーの使い回し、点滴の作り置きなどが、TV / ラジオ / ネットで報道され、医療に対する不信任が高まり、使い回しに関する相談が増加しました。また日常接触による感染不安の相談も多く寄せられました。（報告：佐藤）

### ● ぶ☆PEP

#### ユース部門報告

##### ◆ミーティング他活動状況（ ）内は出席人数

|     |      |                    |
|-----|------|--------------------|
| 4 月 | 7 日  | 定例ミーティング（5 名）      |
| 5 月 | 25 日 | ぶれいす東京活動報告会参加（2 名） |
| 6 月 | 25 日 | 定例ミーティング（3 名）      |

##### ◆お知らせ

若者を対象に行われてきた予防啓発活動は、4 月以降、継続して活動を行うことができなくなったため、活動休止することとなりました。今後の予防啓発事業に関する問い合わせは、直接ぶれいす東京事務所までお願いします。なお、大人部門は今まで通り活動しています。（報告：じっつー）

#### オトナの女性部門報告

|     |      |                                    |
|-----|------|------------------------------------|
| 4 月 | 10 日 | セミナー打合せ                            |
| 5 月 | 25 日 | ぶれいす東京活動報告会で報告                     |
| 6 月 | 28 日 | セミナー打合せ + 今後の活動について<br>(メンバー + 池上) |

現在は 9 月実施予定の「オトナの女的セミナー」に向けて、準備を行っています。（報告：みず）

### ● バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

#### ◆バディ担当者ミーティング参加スタッフ数 （第 1 木曜 11:00 ～、第 3 木曜 18:30 ～）

|     |    |      |     |
|-----|----|------|-----|
| 4/3 | 中止 | 4/17 | 4 人 |
| 5/1 | 中止 | 5/15 | 7 人 |
| 6/5 | 中止 | 6/19 | 5 人 |

※ 午前のミーティングについて、参加者が少なくなっているため、参加者がいる場合にのみ開催します。

※ その他個別のミーティング 10 件

#### ◆利用者数

10 カ所の病院に通院中、もしくは入院中の 19 名の方への 30 名のバディスタッフを派遣

#### ◆活動内容（2008 年 6 月末現在）

|         |      |
|---------|------|
| 派遣継続中   | 18 件 |
| 在宅訪問    | 10 件 |
| 病室訪問    | 3 件  |
| 在宅の電話のみ | 2 件  |
| 派遣休止    | 3 件  |

#### ◆派遣終了 1 件（ニーズの消失により活動が終了。）

#### ◆4 月～6 月の派遣調整 7 件

#### ◆今後のミーティングの日程（第 1 木曜日午前、第 3 木曜日午後）

|               |      |      |       |
|---------------|------|------|-------|
| 11:00 ～ 13:00 | 8/7  | 9/4  | 10/2  |
| 18:30 ～ 20:30 | 8/21 | 9/18 | 10/16 |

## ◆パディの現場から

3月から始まった2件の新規派遣について、1件は入院中の支援だったのですが、退院されてニーズが消失したので、活動が終了しました。1件は都合により現在休止となっています。両ケースともに、昨年度の研修を修了した新しいパディが関わっています。ただ、昨年研修を受けて、まだすべての登録したパディの方が関わっている訳ではないので、待機になっている方は、どうぞもうしばらくお待ち下さい。

また、活動中のパディのみなさんも、お忙しいとは思いますが、定期的にパディ・ミーティング / 個別ミーティングに参加いただき、活動の近況報告をお願いいたします。お待ちしております。(報告:牧原)

## ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのスペースとプログラム

### ◆ネスト利用状況

|    | オープン日数 | 延べ利用者数 | (うち新規) | (※ファシリテーターなど) |
|----|--------|--------|--------|---------------|
| 4月 | 25日    | 138名   | (8名)   | (4名)          |
| 5月 | 24日    | 170名   | (12名)  | (9名)          |
| 6月 | 25日    | 157名   | (7名)   | (3名)          |

(※はファシリテーター、web NEST 運営委員、お茶会、講習会などの企画・運営などの役割を担っているネスト利用者)

### ◆カフェ・ネスト

4月: 5回 51名 5月: 4回 49名 6月: 4回 43名

### ◆ピア・グループ・ミーティング (PGM)

- ・新陽性者 PGM 第40期 (参加者 5名) 4/13 4/26 (修了)
- ・新陽性者 PGM 第41期 (参加者 5名)  
5/17 5/31 6/21
- ・陰性パートナー・ミーティング 5/10 (2名)
- ・ミドル・ミーティング  
4/12 (8名) 5/10 (4名) 6/14 (10名)
- ・もめんの会 5/30 (3名)
- ・グリーフワーク 6/11 (3名)

### ◆学習会 / イベント

- ・6/28 “専門家と話そう” シリーズ 第4回  
「ゲイのドクターと話そう」  
ゲスト: 井戸田一朗さん (しらかば診療所院長) (参加者 18名)  
詳細 P.6

### ◆ミーティング (陽性者メンバー、ぷれいす東京スタッフほか)

- ・新陽性者 PGM ファシリテーター・ミーティング  
5/8 (5、3)
- ・web NEST 運営委員会  
4/21 (2、2) 5/22 (2、2) 6/26 (1、2)

### ◆ネスト・ニュースレター

4/14 4月号発行 5/16 5月号発行  
6/13 6月号発行

### ◆web NEST リンク集お役立ちサイト

web NEST では、リンク集お役立ちサイト充実プロジェクトが着々と進行中です。「冊子・資料集 (PDF 版)」では、「たんぽぽ」をはじめ、告知直後から服薬、福祉制度やセクシュアル・ヘルスまで、PDF として公表されている冊子をまとめました。そのほか、「医療に関する情報」、「福祉・法制度情報」、「セクシュアル・ヘルスについて」(次回掲載予定)、直接資料や情報などを閲覧・入手したりできる「コミュニティ・センターなど」のカテゴリーができました。これからも陽性者や周囲の人たちにとって有益なリンク集となるべく、随時更新していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。(報告:はらだ)

## Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動  
<http://gf.ptokyo.com>

### ◆Gay Friends for AIDS 電話相談

4月 7件 (平均 1.75件)  
5月 8件 (平均 1.60件)  
6月 5件 (平均 1.25件)

### ◆Gay Friends for AIDS のブログができました

現在 G フレではウェブサイトのリニューアルを計画しており、その準備期間の間、最新情報をブログにてお知らせする事になりました。新しいサイトが完成したあとは統合される予定ですので、期間限定のブログとなりますが、ぜひ一度ご覧ください。

<http://gayfriendsforaids.blog82.fc2.com/>

### ◆NLGR に参加

5月31日から6月1日の2日間、名古屋市の池田公園で開催された NLGR に今年もブースを出展しました。今年は初日がやや荒れ模様の天候でのスタートとなりましたが、次第にもちなおし、二日目は汗ばむ陽気の中で、たくさんの方にブースにお越しいただきました。昨年行った OURDAYS DIARY 展のパネルを展示したところ、東京での開催時には見に来る事ができなかった執筆者の方がお立ち寄りくださるという嬉しいハプニングもありました。イベントのレポートは5ページをご覧ください。

### ◆「TOKYO FM × Living Together 計画」

#### コラボイベント第2弾

昨年末に好評だった、TOKYO FM と LT 計画のコラボレーションによるイベントの第2弾が、映画「ぐるりのこと。」を新たにコラボパートナーに迎え、6月6日に開催されました。今回は陽性者の手記と OURDAYS DIARY のパネルがロビーに展示され、これまでの展示とはまた違う層の方にも見ていただけたと思います。こちらのイベントのレポートは4ページをご覧ください。

## HIV陽性者への相談サービス

### ◆相談実績 2008年4～6月

| 2008年         | 4月 | 5月  | 6月 |
|---------------|----|-----|----|
| 電話による相談       | 65 | 73  | 67 |
| 対面による相談       | 46 | 44  | 44 |
| E-mail による相談等 | 81 | 109 | 97 |
| うち新規相談        | 13 | 26  | 12 |

※メール新規は含まず

### ◆4～6月の新規相談者の属性 (N=51)

陽性者: 37人 (男性: 33 女性: 3 その他: 1)  
パートナー (元): 2人 (男性: 0 女性: 2)  
家族: 3人 (男性: 3 女性: 0)  
友人/知人: 3人 (男性: 1 女性: 3)  
その他: 1人 (男性: 0 女性: 1)  
専門家: 5人 (男性: 0 女性: 5)

※専門家内訳 MSW (2)、特養ナース (1)、有料老人ホーム (1)、他 NPO スタッフ (1)

### ◆4～6月新規相談者の情報源 (N=51)

WEB (携帯含): 18件、以前から知っていた: 5件、保健所 / 検査所 4件、パンフレット等: 3件、クリニック: 3件、電話相談: 3件、MSW: 3件、他の陽性者: 2件、看護師: 2件、病院: 2件、カウンセラー: 2件、友人: 1件、家族: 1件、医師: 1件、不明: 1件

#### ◆4～6月の新規相談内容

##### 【ミーティング参加等】

検査所で告知を受けてパンフレットをもらったので、その足で来た。／PGMへの参加希望、告知後1ヶ月、症状がでての入院でわかった。／数年前に他の病気で入院中に感染を知る。ネットワークを広げようと来所。(関西)

##### 【検査や告知後】

高熱がでて一般病院に入院中。HIV検査を依頼したら陽性の結果で混乱。／梅毒でHIVの可能性もあると言われて検査したら陽性。経路が不明。／最近、自発検査で陽性が判明。検査を導入した医療機関紹介に不満がある。／先週、抗体検査を受けたが、結果が待ちきれず、迅速検査を受けて陽性を知った。／最近、泌尿器科で梅毒が判明。その後、保健所でHIV検査を受け陽性だった。／パートナーができたので、保健所にて受検。／行政と大学病院連動の検査で陽性とわかった。情報を増やしたい。／休職中に感染がわかった。友達とたまたま話していたら、彼も感染者だった。／1ヶ月前に南新宿で告知。つきあい始めたので、検査をした。／昨年、大学病院で手術前検査で陽性と判明。通院中だが、セカンドオピニオンを希望。／昨日、告知。献血で手紙がきて告知を受けた。／1週間前に告知。医療費のこと、病院のことなど知りたい。他の女性はどうしているのか。／コンジローム治療中のクリニックにて告知。周囲にもカミングアウトしている。

##### 【人間関係】

東京近県の医療機関に通院中。親への通知について相談したい。／以前、行政の派遣カウンセラーに連絡先を聞いていた。セックスの相手とトラブルっている。／友達の感染がわかった。本人からもらったパンフレットに電話番号があった。(九州)／陽性と判明したが、最近のセックス相手が数人いて、通知をどうしたらいいのだろうか。／入院中。家族の勧めで相談員に会ったが、本当は誰にも会いたくない。／知らない間に、足から出血していたらしい。他人に指摘され不安に。(東海)／パートナーが外国人。結婚を考えているけども、不安。(東京近県)／遠距離のパートナーの感染が判明。／肺炎で発症でわかった。誰にも感染について話したことがなかった。／医療機関職員からの相談。他人の感染をしてしまった。直接きいていないが不安になった。／パートナーの家族の感染が判明した。同居は大丈夫だろうか。(九州)

##### 【医療など】

体調不良で入院。間質性肺炎との診断で、ステロイド療法を受けていた。転院した時にはCD4が一桁だった。／初期感染。ただ症状がひどく服薬を開始した。他の陽性者はどうしているのか。／東京へ引越す予定。都内の病院の評判を知りたい。／服薬を開始して発熱。これは副作用なのか不安。／通院中の病院の医師とのつきあい方について相談したい。(東海)／家族が肺炎の診断がつかずにステロイド療法で、CD4が一桁に。(東京近県)／大学病院に入院中。院内で洗濯を制限されてしまい不安になった。／他NPOから。外国人が都内で治療を受けるのに、宿泊先を探している。／土日にやっている医療機関の情報がほしい。

##### 【生活や福祉】

東京に移転してきたので、住居をさがしている。／生命保険のことで相談をしたい。知人から契約変更の勧めがあり困っている。／学校関連の医療機関にいけば、医療費軽減があるので転院を考えている。／老後の生活について考えている。将来は、東京に戻って生活したい。(北陸)／海外にて生活中。帰国中に母国の状況もしておきたいと来所。／マンションの購入を考えている。保険の加入はどうしたらいいか。

##### 【就労】

無職だったのだが、就職活動をしたい。障害者枠はどうか。(関西)／派遣で働いてきたが、社員になりたい。健康保

険のプライバシーが不安。(東北)／医療費控除の申請をしたら、会社の給与明細の障害者欄に印がついていた。

##### 【専門家】

MSWからの相談。英語スピーカーが都内で就職活動をするので、サポートはできるか。(関西)／特別養護老人ホームで陽性者を受け入れることを検討している。／有料老人ホームを運営している企業スタッフ、前向きに取り組みたい。(東京近県)  
(報告：牧原／福原／生島)

## 研究部門

### 厚生労働科学研究費補助金

#### ◆「地域におけるHIV陽性者等支援のための研究」が始動。

この研究グループは、2008年4月より3年計画で実施予定です。地域で暮らすHIV陽性者固有の課題を明らかにしつつ、相談・支援の実践例及び支援ツールを提示することを目指します。

(研究代表 生島嗣)

1. HIV陽性者の生活課題の分析  
生島嗣(特定非営利活動法人ぷれいす東京)
2. 地域における相談機関の機能に関する研究  
牧原信也(特定非営利活動法人ぷれいす東京)
3. HIV陽性者の就労・社会参加に関する研究  
若林チヒロ(埼玉県立大学保健医療福祉学部)
4. 保健所における相談・支援機能に関する研究  
大木幸子(杏林大学保健学部看護学科)
5. 関西地区におけるHIV陽性者相談・支援に関する研究  
青木理恵子(特定非営利活動法人チャーム)

### エイズ予防のための戦略研究(研究リーダー：市川誠一)

#### ◆MSM首都圏グループ

##### ・2007年度活動報告会実施

7月11日(金)13:45-16:30 @新宿文化センター小ホール  
演者:9名(ぷれいす東京からは、生島、砂川、矢島、岩橋が登壇)  
参加人数:100名(来場者84名、演者/スタッフ16名)  
首都圏の行政担当部署、拠点病院、保健所、検査相談機関、クリニック、NPO、当事者団体などから、84名の参加がありました。

##### ・アンケートとキャンペーン

7、8月には、携帯電話アンケートの実施(プレリユード2008(7/27)、バレーボール大会SMASH杯(8/10))。東京レインボー祭での新REALロゴに関するキャンペーンを実施。

#### ◆MSM京阪神グループ「陽性者サポートプロジェクト関西」

告知直後のHIV陽性者を対象に電話相談を運営しつつ、地域のHIV陽性者の支援の充実、支援ネットワークの構築を目指すのが、陽性者サポートプロジェクト関西です。

1. 電話相談 2007年10月より運営開始。  
2007年10月-2008年3月:10件  
2008年4-6月:8件
2. 陽性者支援にかかわる人たちのためのカンファレンス  
日時:2008年7月27日(日)  
13時00分-16時30分(定員:35人)  
場所:国立病院機構大阪医療センター  
緊急災害医療棟2階研修室

今回は陽性者相互の支援を提供している団体『Follow』(<http://www.follow-web.com>)をお招きして活動内容や陽性者の現状について話題提供していただきました。(報告:生島)



# ボランティア募集！ 合同研修のお知らせ

特定非営利活動法人ぶれいす東京は、HIV/AIDSのケアと予防に取り組む団体です。HIV感染の広がりにともない、ぶれいす東京が提供するサービスを必要とする人も増えていますが、対応にあたってスタッフが慢性的に不足しています。

HIV/AIDSに関わるボランティアを、自分のできる範囲で、できることから、私たちと一緒に活動をしてみませんか？今回は下記のボランティアを募集しています。

- ・ HIV 陽性者のサポート活動 「バディ」
- ・ エイズ電話相談の相談活動 「ホットライン」
- ・ ゲイ向け予防啓発活動 「Gay Friends for AIDS」
- ・ オトナの女性向けのピアエンパワメントプログラム

性別、年齢、セクシュアリティ、HIV/AIDSの知識や活動参加の経験の有無などは問いません。興味がある方はどなたでもオリエンテーションに参加できます。活動に参加する、しないは、オリエンテーション終了後に決めて下さい。

ただし、今後ボランティアとして活動する場合は、その後行われる3日間の基礎研修を受講し、修了後1年間活動に必ず参加できる方とさせていただきます。研修では、多才な講師陣の個性的な講義や多様な参加者でのワークショップを開催する予定です。

## ■オリエンテーション日時

2008年9月7日(日) 午後2時～午後4時  
(受付は午後1時45分～)

※オリエンテーションの参加にあたっては、事前の申し込みが必要です。希望する方は必ず事前にメールか電話で事務所までお申し込み下さい。

## ■研修日程：9月14日(日)、9月23日(火・祝)、 9月28日(日)の3日間。

※会場や時間、研修の内容などの詳細はオリエンテーションにて説明を行います。

## ■場所：豊島区立生活産業プラザ 8F 多目的ホール (豊島区東池袋1-20-15 JR池袋駅東口より徒歩7分程度)

※当日は筆記用具をご持参下さい。

※研修に参加したいけれども、オリエンテーションに参加できない方への個別の対応も可能です。一度ご相談下さい。

## [お問い合わせ・お申し込み]

特定非営利活動法人 ぶれいす東京

〒169-0075

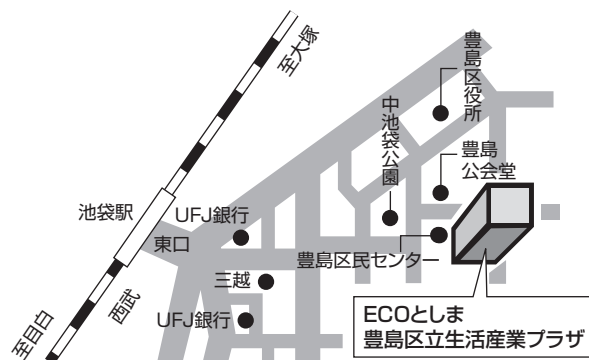
東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス204

TEL 03-3361-8964 FAX 03-3361-8835

(受付時間 平日 12:00-19:00)

E-mail : info@ptokyo.com (担当 牧原)

URL : http://www.ptokyo.com



## ●ぶれいす東京事務所の住所変更について

すでにお知らせをしておりますが、ぶれいす東京事務所は2007年10月に移転しました。

同じ建物内の1階下に移動となり、電話・FAX・メール等の連絡先は従来と変わりませんが、**部屋番号が変わりました**。新住所は右記の通りです。再度ご確認のうえ、郵送物などの宛先をお間違いのないようによろしくお願いいたします。

## ★新住所

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス

204号



## ■編集後記■

- ・ 夏はトマトが美味しく感じて、毎日のように食べてます。そのせいでないんだらうけど体重とウエストが減少、本当は筋力アップしてるハズだった2008年夏がもうすぐ終わる…(こんどう)
- ・ この誌面を通して、私たちの連携のアリ様が鮮度よく切りとられている感がある。「立ち位置」の違いを越えていることに価値があるのだと改めて感じる。(いくしま)
- ・ 突然の雷と豪雨。少し待っていれば降りやむのは分かっているのだけれど、無理矢理突入してびしょぬれに。せっかちな性格はいまさら変えられない？(やじま)

## 編集・発行：特定非営利活動法人 ぶれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス204

TEL : 03-3361-8964 (月～金 12:00～19:00)

FAX : 03-3361-8835

E-mail : info@ptokyo.com

ぶれいす東京 HP : http://www.ptokyo.com/

Gay Friends for AIDS : http://gf.ptokyo.com/

web NEST : http://web-nest.ptokyo.com/